

各部部長及び
若手アカデミー報告資料

第一部報告
第184回総会
2022年4月18-20日

第一部役員
部長：橋本伸也
副部長：溝端佐登史
幹事：小林傳司
幹事：日比谷潤子

第一部の組織
分野別委員会（10）・分科会（79）

分野別委員会	分科会数
言語・文学委員会	4
哲学委員会	5
心理学・教育学委員会	13
社会学委員会	9
史学委員会	10
地域研究委員会	9
法学委員会	9
政治学委員会	5
経済学委員会	6
経営学委員会	5
第一部直接統括	4

第一部の運営体制

- 部会：年3回を予定
- 役員打ち合わせ：随時
- 拡大役員会：部会の間に1-2回、必要に応じて開催（部役員+分野別委員長）
- 第一部が直接統括する分科会
 - ①国際協力分科会
 - ②人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会
 - ③人文・社会科学基礎データ分科会
 - ④総合ジェンダー分科会

第25期の方針（第二回部会〔4月21-22日〕で確認）

- ① 会員任命問題の解決をめざして四役、幹事会、第二部、第三部との強固な連携のもとで粘り強い働きかけを継続します。
- ② 改正科学技術・イノベーション基本法、第6期基本計画のもとでの人文・社会科学の振興策についての審議・具体化を進めます。
- ③ 「日本学術会議のより良い役割発揮」をめぐる議論について、部の特性を生かしながら積極的に参画します。
- ④ 部における分野別委員会・分科会体制及び科学的助言活動のあり方についての検討を進めます。

前回総会以降の活動（骨子）

- 会員任命問題への取り組み：部役員が幹事会等において必要な取り組みに参画
- 改正科技・イノベ法下での人文・社会科学振興策についての議論→拡大役員会、「人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会」において議論、審議結果の取りまとめにむけて
- 「意思の表出」に向けた第一部内の体制の構築
- 分野別委員会合同分科会の設置による広い視野に立った分野横断的審議活動のための体制構築の準備
- 多彩なシンポジウム等の開催（2021年12-2022年3月に学術フォーラム2件、公開シンポジウム10件）
- 第一部における国際活動

改正科学技術・イノベ法のもとでの人文・社会科学振興

- 法改正（令和3年4月1日施行）、第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）
- 「人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会」での検討
 - ✓ 政策的展開：「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」、「総合知」、「人文学・社会科学のデジタル・トランスフォーメーション」、「人文学・社会科学におけるデータ駆動型研究」など
 - ✓ 人文・社会科学における研究評価のあり方：**European Commission (2021) Towards a reform of the research assessment system, Scoping Report, November 2021, etc.**
 - ✓ 審議結果の取りまとめに向けて

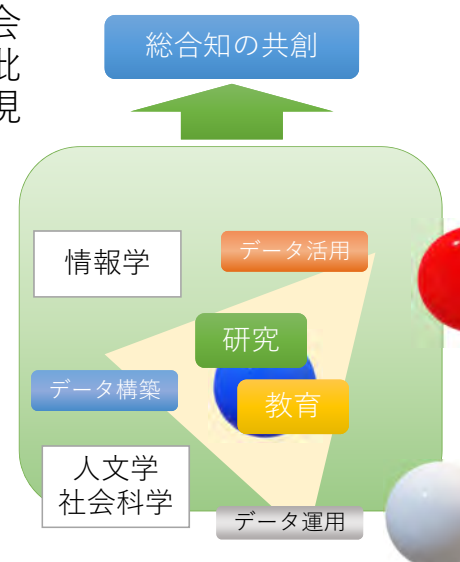
デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会

• 目的

- ✓ デジタル時代における人文・社会科学の研究を情報学との連携（心理学・教育学／言語・文学／哲学／社会学／史学／地域研究／情報学委員会が参画）により批判的かつ建設的に横断して検討を行い、総合知を実現し得るデジタル時代の学知の在り方を明らかにする

• これまでの取り組み

- ✓ 分科会の開催
- ✓ 公開シンポジウム「総合知創出に向けた人文・社会科学のデジタル研究基盤構築の現在」（1月22日）
人文・社会科学デジタル研究基盤の国際的潮流
350名の参加申し込み（100名定員）



「意思の表出」に向けた第一部内の体制の構築

- 基本的考え方：①新たな「意思の表出」の仕組みを踏まえた分野別委員会の抜本的な機能強化、②部における査読等の体制の再構築
- 手続きにつき新たに設けたルール等
 - ✓ 「第一部関連分野別委員会および分科会が作成する提言・見解・報告の取扱いについて」（2022年1月21日、第一部拡大役員会決定）
 - ✓ 「分科会等から科学的助言等対応委員会への「検討課題の申し出」等に至る際の第一部における手続きについて」（令和4年3月23日、第一部拡大役員会）
 - ✓ 分野別委員会における分科会からの「相談」への対応、査読体制などについての個別ルールの策定

学術フォーラム・公開シンポジウムの事例から

◆学術フォーラム

「【コロナ禍を共に生きる # 5】 感染症をめぐる国際政治のジレンマ 科学的なアジェンダと政治的なアジェンダの交錯」(2月6日、政治学委員会主体)

「【コロナ禍を共に生きる # 6】 ウィズ／ポストコロナ時代の民主主義を考える：「誰も取り残されない」社会を目指して」(3月15日、社会学委員会主体)

◆公開シンポジウム (10件)

COVID19関連 (2件)、各委員会・分科会の特質に応じた多彩な企画

第一部における国際活動

◆S20 Indonesia 2022

«RECOVER TOGETHER RECOVER STRONGER»

Joint Statement策定への参画 (第一部役員会)

◆アジア学術会議 (3月15-17日)

Parallel Session Theme 8: Social Science Paradigm with emerging Big data, Artificial Intelligence and Block-Chains

佐藤嘉倫会員報告: “*Mind the Gap between Sociology and Computational Social Science*”

第二部活動報告

令和3（2021）年12月～令和4（2022）年3月

第二部役員

部長：武田 洋幸
副部長：丹下 健
幹事：尾崎 紀夫
幹事：神田 玲子

組織及び活動の概要

第二部は現会員70名、下記の9委員会※1のもとに91分科会＋1小委員会が設けられており、各分野に特徴ある活発な活動を展開している。部会は10月、4月の総会時および夏季の計3回開催され、役員会は幹事会の開催日に合わせて行われており、部の運営方針を決定している。

分野別委員会	委員長	分科会数
部附置分科会	※2	3
基礎生物学委員会	小林 武彦	15
統合生物学委員会	北島 薫	7
農学委員会	仁科 弘重	14
食料科学委員会	熊谷 日登美	9
基礎医学委員会	松田 道行	11
臨床医学委員会	名越 澄子	14（＋小委員会1）
健康・生活科学委員会	小松 浩子	8
歯学委員会	市川 哲雄	3
薬学委員会	山崎 真巳	7

※1 環境学委員会は第一部～第三部が合同で設置しており、9委員会には含めていない。

※2 第二部が直接統括する分野別委員会合同分科会として以下を設置。

○第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会（委員長：熊谷 日登美）（前期からの継続）

○第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会（委員長：秋葉 澄伯）（前期からの継続）

○着床前診断、特にPGT-Mに関する検討分科会（委員長：藤井 知行）（第322回幹事会承認 令和4年2月24日）

第二部会、第二部拡大役員会の開催

◇第二部部会：開催なし

◇第二部拡大役員会（第二部役員＋分野別委員会委員長）

第3回（令和4年2月21日）

議題等：意思の表出に係る手続きについて（日本学術会議
全体及び第二部の査読体制）

第二部が直接統括する分科会 #1

◆ 第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

- 設置目的：生命科学分野の大学・研究機関・学協会におけるジェンダー・ダイバーシティに関わる現状を把握し、女性研究者や外国人の研究者が活躍できるようにするにはどうすれば良いかについて検討を行う。
- 審議事項：
 1. 生命科学分野の大学・研究機関・学協会における女性活躍推進のための方策の検討
 2. 生命科学分野におけるダイバーシティ推進に向けた方策に係る審議に関すること

委員長：熊谷 日登美（第二部会員）

- 連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」
 - 第1回「大学における女性リーダーから見た課題と展望」 令和3年10月28日 オンライン開催
 - 第2回「大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み」 令和3年12月19日 オンライン開催
 - 第3回「Disability Inclusive Academia: 障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」 令和4年3月23日 オンライン開催

第二部が直接統括する分科会 #2

◆ 第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会

- 設置目的: 大規模感染症等を予防・制圧するために必要な体制の整備等についての現実的な提言に向けた検討を行う
- 審議事項: 国民の健康・福祉の脅威となりうる感染症に関して以下の検討を行う
 1. 過去および将来の感染症流行による公衆衛生上の危機の検討
 2. 感染症流行予防に必要な組織とその連携
 3. 国民の健康・福祉の脅威となりうる感染症流行に迅速・適切に対応するために必要な組織との連携
 4. 感染症を制圧するために必要な組織とその連携
 5. 感染症予防・制圧体制に必要な国際連携と協働
 6. その他、第二部幹事会が必要と考える感染症流行に関する事項に係る審議に関すること

委員長: 秋葉 澄伯(連携会員)

- これまでに15回の分科会を開催
(令和2年 11/18, 12/17, 令和3年 1/19, 2/24, 3/30, 4/20, 5/18, 6/15, 7/16, 8/23, 9/28, 10/19, 12/13,
令和4年 2/18, 3/22)
新型コロナウイルス感染症対策の現場で活動されている方々等に講演していただき、議論を進めている。

第二部が直接統括する分科会 #3

◆ 着床前診断、特にPGT-Mに関する検討分科会

- 設置目的: 着床前診断-Preimplantation Genetic Testing(PGT)、特にPreimplantation Genetic Testing for Monogenic(PGT-M: 重篤な遺伝性疾患を対象とした検査)は、遺伝性疾患を有する当事者とその家族の想いを尊重すべきだという意見がある一方、遺伝子による選別、産み分けなど優生思想、差別にも繋がり得るとの観点から慎重な実施を望む意見も根強いが、現在その規制は日本産婦人科学会の「見解」による自主規制のみである。技術的進歩により比較的簡便に実施することが可能な状況になっており、またPGT-Mに対する社会の考え方も変化している中で、規制の実効性を担保する国の指針等による方向性の明確化を強く求める指摘もある。上記の状況を踏まえ、この問題について、日本学術会議において、臨床、生命倫理、法学、情報管理を含む委員会を組織し、医学会連合や関連する学協会など関係機関との連携の上で審議を進めたい。すなわち、諸外国における規制動向や議論を踏まえつつ、わが国においてさらに実効性を担保する規制を行うことの可否やその際の課題などについて検討を行う。
- 審議事項:
 1. PGT-M実施に対し、国による規制を加えることの可否
 2. PGT-M実施に何らかの規制を加えるとした場合、規制の作成および運用を、どのような方法で行うのが、もっとも実効性があり、かつ妥当であるのか。

委員長: 藤井 知行(第二部会員)

- 令和4年3月23日に第1回分科会を開催

関連学協会との連携

- 学術会議幹事会は、記者会見を毎月開催して社会に対して情報発信するとともに、会員・連携会員や協力学術研究団体に記者会見内容をメール配信してきた。第二部では、学協会連合体に対して記者会見内容の通知を行ってきた。

第二部が連携している学協会連合

生物科学学会連合、脳科学関連学会連合、一般社団法人日本農学会、公益財団法人農学会、日本医学会連合、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会、一般社団法人日本歯科医学会連合、日本薬学会

- 第二部が中心となって新型コロナウイルス感染症に関する学術フォーラムをシリーズで開催することを第二部役員会で決定し、日本医学会連合と共同で開催した。

学術フォーラム「コロナ禍を共に生きる04[新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown#3]「新型コロナウイルス感染症の予防と治療 Up-to-date そして変異株への対応」 令和4年2月5日(土) オンライン開催(最大視聴数917)

シンポジウム等(開催済) #1 (令和3年12月～令和4年3月)

第二部においては、令和3年12月から令和4年3月の期間中、18件の公開シンポジウム等を開催した。

開催日	名 称	開催場所	委員会・分科会
令和3年 12月4日(土)	グリーンリカバリーへの植物保護科学の貢献	オンライン開催	植物保護科学分科会
12月8日(水)	地球と生命をつなぐ高度な化学物質ネットワーク	オンライン開催	農芸化学分科会
12月11日(土)	With/After コロナ時代におけるケアの課題と新たな取り組み—子育てをしながら働き、働きながら暮らすための地域共生社会	オンライン開催	少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会、看護学分科会、ワークライフバランス研究分科会、若手アカデミー
12月12日(日)	口腔疾患の予防・治療・保健教育の場も喫煙防止・禁煙支援指導などの喫煙対策の場として活用すべきである	名古屋国際会議場及びオンライン配信	脱タバコ社会の実現分科会
12月19日(日)	連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」第2回「大学・企業・学協会におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み」	オンライン開催	第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、男女共同参画分科会
12月21日(火)	ポストコロナ時代に求められる公衆衛生人材	京王プラザホテル及びオンデマンド配信	健康・生活科学委員会、パブリックヘルス科学分科会
令和4年 1月13日(木)	歯学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ～課題と展望について～	オンライン開催	歯学委員会、病態系歯学分科会
1月25日(火)	コロナ禍での感覚器障害のリスク	オンライン開催	感覚器分科会
1月29日(土)	動物科学の最前線:めくるめく多様性を科学する	オンライン開催	動物科学分科会
1月29日(土)	スポーツ体育健康科学学術フォーラム「スポーツの新たなステージへ～調和のとれた共生社会の構築に向けて～」	オンライン開催	健康・スポーツ科学分科会

シンポジウム等(開催済) #2 (令和3年12月～令和4年3月)

開催日	名 称	開催場所	委員会・分科会
2月5日(土)	新型コロナウイルス感染症の最前線 -what is known and unknown#3 「新型コロナウイルス感染症の予防と治療 Up-to-date そして変異株への対応」	オンライン開催	日本学会議
2月14日(月)	移植・再生医療の現在の課題	オンライン開催	移植・再生医療分科会
2月19日(土)	子どもの毒性学: 子供の高次脳機能への化学物質曝露影響の把握に関わる、臨床、応用および基礎科学の現状と展望	オンライン開催	毒性学分科会
2月26日(土)	生活に身近なOne Health: 食品から検出される薬剤耐性菌の現状	オンライン開催	獣医学分科会、食の安全分科会、畜産学分科会
2月26日(土)	生物多様性からみたワイルドサイエンス	オンライン開催	ワイルドライフサイエンス分科会
3月18日(金)	複合的アプローチで拓く新規フードサイエンス	オンライン開催	農芸化学分科会
3月20日(日)	グリーン・デジタルによる持続的食料生産: 環境保全型DX支援放牧のポテンシャル	オンライン開催	畜産学分科会
3月21日(月)	新型コロナウイルス感染拡大がもたらした日本の食と農をめぐる経済・社会問題	オンライン開催	農業経済学分科会
3月23日(水)	連続公開シンポジウム「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ」 第3回「Disability Inclusive Academia: 障害のある人々の視点は科学をどう変えるか」	オンライン開催	第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、男女共同参画分科会

第三部報告

令和3年12月～令和4年4月

第三部部会 (前回総会中)12/3

第三部拡大役員会 *12/24, 1/27, 2/24, *3/24

* 分野別委員会委員長も参加

部長	吉村 忍
副部長	米田 雅子
幹事	沖 大幹
幹事	北川 尚美

1. 第三部における分野別委員会

	委員長	副委員長
環境学委員会 *	浅見 真理	池邊 このみ
数理科学委員会	小澤 徹	齋藤 政彦
物理学委員会	野尻 美保子	腰原 伸也
地球惑星科学委員会	田近 英一	佐竹 健治
情報学委員会	相澤 清晴	谷口 倫一郎
化学委員会	茶谷 直人	北川 尚美
総合工学委員会	小山田 耕二	玉田 薫
機械工学委員会	大島 まり	金子 真
電気電子工学委員会	中野 義昭	中川 聡子
土木工学・建築学委員会	小林 潔司	田辺 新一
材料工学委員会	山口 周	乾 晴行

* 第一部～第三部合同

11分野別委員会のもとに80分科会が設置され活動

1. 第三部の附置分科会

理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会

委員長 野尻 美保子

副委員長 伊藤 貴之

参考 第25期の第三部も深く関わる課題別委員会

「[防災減災](#)学術連携委員会」

「[自動運転](#)の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会」

「[オープンサイエンス](#)を推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会」

「[学術情報のデジタルトランスフォーメーション](#)を推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会」

「[フューチャー・アース](#)の推進と連携に関する委員会」

「我が国の学術の発展・[研究力強化](#)に関する検討委員会」

1. 第三部の附置分科会

参考 第25期の第三部も深く関わる委員会等連絡会議

「[カーボンニュートラル\(ネットゼロ\)](#)に関する連絡会議」

「[パンデミックと社会](#)に関する連絡会議」

「持続可能な発展のための[国際基礎科学年2022\(IYBSSD2022\)](#)連絡会議」

2. 令和3年12月～令和4年4月の活動

(1) 第三部会での議論

- 夏季部会の開催場所、シンポジウムの内容について意見交換
- 各分野別委員会からの活動報告
- 学術研究振興分科会について説明及び意見交換
- 第三部内の査読プロセスについて説明及び意見交換
- その他

(2) 拡大役員会での議論(*12/24, 1/27, 2/24, *3/24, * 分野別委員会委員長も参加)

- 第三部内の査読プロセスについて審議の上、決定
- 第三部内の予算執行について状況を確認した上で、方針を決定
- 次回の理学・工学系学協会連絡協議会、夏季部会等について意見交換
- その他

3. 学術フォーラム開催

「地球環境変動と人間活動－地球規模の環境の変化にどう対応したらよいか－」(R3.12.5)

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会【オンライン開催】

「我が国の学術政策と研究力に関する学術フォーラム－我が国の研究力の現状とその要因を探る－」(R3.12.11)

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会【オンライン開催】

「ELSIを踏まえた自動運転の社会実装－自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン－」(R3.12.13)

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会【オンライン開催】

「カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦 システムの転換を目指して」(R4.3.13)

カーボンニュートラルに関する連絡会議運営ワーキンググループ【オンライン開催】

3. 学術フォーラム開催

「COVID－19時代のデータ社会とオープンサイエンス」(R4.3.25)
オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会
【オンライン開催】

4. 公開シンポジウム開催

「第11回計算力学シンポジウム」(R3.12.6)
総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学
設計分科会【オンライン開催】

「科学的知見の創出に資する可視化(7): 人間を識り活かす総合知をもたらす
「視考」」(R3.12.13)
総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
【オンライン開催】

「プラスチックのガバナンス: 感染症制御のための衛生管理と資源循環」
(R3.12.23)
環境学委員会・健康生活科学委員会合同環境リスク分科会、
健康・生活科学委員会・基礎医学委員会合同パブリックヘルス科学分科会
【東京大学伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール】

「カーボンニュートラルに向けた情報学の役割」(R4.1.12)
情報学委員会【オンライン開催】

4. 公開シンポジウム開催

「原子力総合シンポジウム2021 福島第一原子力発電所事故から10年の今、考えること」(R4.1.17)

総合工学委員会原子力安全に関する分科会【オンライン開催】

「将来のエネルギー科学技術に向けたパワーレーザーと高エネルギー密度科学の役割と展望」(R4.2.3)

総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会【オンライン開催】

「アト秒レーザー科学研究施設(ALFA)計画の現状と展望」(R4.3.8)

化学委員会物理化学・生物物理化学分科会

【自然科学研究機構分子科学研究所及びオンライン開催】

「第7回理論応用力学シンポジウムー力学のさらなる発展に向けてー」(R4.3.11)

機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会【講堂及びオンライン開催】

4. 公開シンポジウム開催

「安全安心技術が支えるデジタル社会 Digital Society Supported by Safety And Security Technologies」(R4.3.14)

情報学委員会デジタル社会を支える安全安心技術分科会

【オンライン開催】

「2050年カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーシナリオ」(R4.4.1)

総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会【オンライン開催】

5. 理学・工学系学協会連絡協議会

令和4年3月24日 10:00～12:00 WEB開催

- 「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」、「日本学術会議と国内の学協会連合等との連携に関する調査報告書」について説明
- カーボンニュートラルに関する連絡会議、持続可能な発展のための国際基礎科学年2022連絡会議について説明
- 参加した学協会と次の事項について意見交換を実施
カーボンニュートラル、研究力強化等

理学・工学系学協会連絡協議会(82学協会)
日本学術会議第三部役員会のもとに、理学・工学系の学協会との連携を強め、双方の活動をさらに発展させるために、科学・技術、学協会、日本学術会議等に関わる課題について意見交換する場として設置。多くの学協会に共通する課題(新公益法人制度、学術論文誌の出版、若手・人材育成、財政等)、科学・技術全般に跨る課題、学協会から日本学術会議への意見・要望等について、情報交換・意見交換を行ってきた。

- | | |
|------|---------------------------|
| 第1回 | 平成22年4月23日(金) 13:30～15:30 |
| 第2回 | 平成23年7月29日(金) 13:30～15:30 |
| 第3回 | 平成24年5月18日(金) 14:00～16:00 |
| 第4回 | 平成25年2月22日(金) 10:00～12:00 |
| 第5回 | 平成26年6月25日(水) 13:30～15:00 |
| 第6回 | 平成28年6月24日(金) 10:00～12:00 |
| 第7回 | 平成29年8月31日(木) 10:00～12:00 |
| 第8回 | 平成30年3月30日(金) 10:00～12:00 |
| 第9回 | 平成31年3月28日(木) 10:00～12:00 |
| 第10回 | 令和2年8月26日(水) 10:00～12:00 |
| 第11回 | 令和2年10月30日(金) 13:00～15:20 |
| 第12回 | 令和3年6月24日(木) 10:00～12:00 |
| 第13回 | 令和4年3月24日(木) 10:00～12:00 |

6. 今後の主な予定

令和4年第三部夏季部会の企画

第25期日本学術会議 若手アカデミー活動報告 (2021.10-2022.3)



第25期若手アカデミー

日本学術会議若手アカデミー (Young Academy of Japan) は、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野にわたる、45歳未満の研究者をメンバーとしています。

第25期全体委員数：50名
(うち特任連携会員：7名)

全体会議	2020年11月30日, 2021年12月10日
運営分科会	2020年12月16日, 2021年1月21日, 2月22日, 9月1日、2022年3月23日

8つの分科会 (具体的な活動を担う)

学術の未来を担う人材育成分科会	(12名)
学術界の業界体質改善分科会	(5名)
越境する若手科学者分科会	(19名)
国際分科会	(11名)
地域活性化に向けた社会連携分科会	(14名)
イノベーションに向けた社会連携分科会	(12名)
GYA 総会国内組織分科会	(14名)
情報発信分科会	(11名)



全体会議スクリーンショット

第25期若手アカデミー運営分科会メンバー

幹事団



代表
岩崎 渉



副代表
安田仁奈



幹事
小野 悠



幹事
松中 学

各分科会 委員長



国際分科会
入江直樹



GYA 総会
国内組織分科会
新福洋子



学術界の業界体質
改善分科会
川口慎介



地域活性化に向けた
社会連携分科会
加藤千尋



学術の未来を担う
人材育成分科会
平田佐智子



越境する若手科学者
分科会
石川麻乃



情報発信分科会
高田知実



イノベーションに向けた
社会連携分科会
高瀬堅吉

若手アカデミー分科会活動状況 (1/2)

分科会名	活動目的・内容	開催状況
地域活性化に向けた社会連携分科会	現在国内外の社会経済状況が大きく変化する中、科学と地域社会との関係性が問い直されている。社会課題の解決に科学の知識や手法が有効であるだけでなく、科学する場としての地域社会、科学への市民の参加が見直されている。地域社会における科学者の役割を幅広く検討し、多様な主体との対話を重ねることで、科学と地域社会の持続的な関係性を再定義し、実現方を検討する。	第1回 1月19日開催 3月1日公開ワーク ショップ「若手科学 者が拓く地域と科学 の関係」開催 第2回 6月2日開催 第3回 12月10日開催
学術界の業界体質改善分科会	研究従事時間の減少とそれ以外の業務の増加が指摘されるなか、研究に集中できる環境整備と健全なライフ・ワーク・バランスの確立は、重要な課題である。学会活動にかかる時間的負担やその他の慣例的な業務負担など、学術界の様々な「業界体質」を可視化し、その改善に向けた調査・議論を進める。	第1回 2月12日開催 第2回 11月22日開催
イノベーションに向けた社会連携分科会	第25期若手アカデミービジョン・ミッションを共有し、「イノベーション」の概念整理に着手している。現時点で優先すべきイノベーション、イノベーションを起こすために必要なもの、イノベーションを阻むものについて議論する。今後、シンポジウムを開催し、広く市民との意見交換の場を持つとともに、関係団体と意見交換を行い、議論の内容を意思の表出へとつなげる。	第1回 2月22日開催 第2回 4月16日開催 第3回 11月16日開催 第4回 12月10日開催 第5回 1月18日開催 第6回 3月23日開催
情報発信分科会	若手アカデミーの活動を促進し、その有効性を高めるために、情報発信の媒体や方法を議論し、実践する。国内のアカデミアとその周辺に限定せず幅広い利害関係者をステークホルダーと捉え、若手アカデミーに関する理解や認識を得ながら対話し、双方向的なコミュニケーション活動を目指す。	第1回 4月15日開催 第2回 7月12日開催

若手アカデミー分科会活動状況 (2/2)

分科会名	活動目的・内容	開催状況
学術の未来を担う人材育成分科会	大学院において専門教育を受けた多様な人材を活かすべく、高等教育が担う教養教育・専門教育の社会的価値を多角的に評価するための調査・議論を進める。また、大学院生が効果的な教育を受け研究に専心できる環境を構築するための調査・議論や精神的・経済的な環境に対して支援する枠組みのあり方について検討をおこなう。	第1回 2月17日開催 第2回 11月22日開催
越境する若手科学者分科会	幅広い専門分野を持つ若手科学者の間の研究交流を図り、既存の発想にとられない科学分野間の融合によって革新的な研究展開が生じうる新規領域やそれらが生む未来社会のビジョンの提案、新しいテクノロジー等を用いた市民との交流の実践を行う。	第1回 2月26日開催 研究交流会5回開催 第2回 5月18日開催 第3回 12月10日開催
GYA 総会国内組織分科会	国際的若手学術組織であるグローバルヤングアカデミー(GYA)と共に、科学技術の未来や世界規模の社会課題の解決を考えるGYA総会兼学会を日本で開催する。GYA共同代表、執行役員およびメンバーで構成される企画組織委員会と連携し、企画内容および登壇者の提案や国内的な準備を行い、かつ若手アカデミー以外の若手研究者や若手以外の研究者、行政官、産業界、一般市民も参加できる議論の場を設定できるよう連絡調整を行う。	第1回 1月21日開催 第2回 3月12日開催 第3回 6月17日開催 第4回 10月8日開催 第5回 1月5日開催
国際分科会	世界における日本の学術の役割や、世界におけるわが国の学術をどのように進めていくべきかについて、若手科学者の立場から考える。既に関係の深い国際的若手学術組織であるGYAへの参画を通じ、他国の若手アカデミーとの交流を深め、また我が国との交流連携を深めるとともに、他国のアカデミーと共同して国際的発信を行う。	第1回 2月15日開催 第2回 3月24日開催 第3回 12月10日開催

若手アカデミー活動報告

学振特別研究員の「保育園問題」の改善

- 「雇用関係がない」ことで、保育所申請の入所ポイントが無職扱いで不利になる問題
- 学術界の業界体質改善分科会・川口会員から意見募集し、JSPSに改善するように働きかけ
- JSPSがWebページ「保育園の入園等で必要となる採用証明書について」を作成・公開

若手アカデミー活動報告

日本学術会議in福岡

学術講演会「若手研究者が考える地方創生と学術の未来」

2022年2月23日（水・祝）14:00～17:25 オンライン開催

場所：九州大学・椎木講堂（ハイブリッド）

開催趣旨：

地方創生には様々なステークホルダーが関わってくるが、その推進に向けて、それぞれが問題を抱えているのが現状である。ここでは、中央政府、地域行政、産業界、地域における高等教育機関、若手研究者、それぞれの関わり方・役割について、主に若手研究者の視点から課題を掘り起こし、これからの地方創生のあるべき姿に迫る。

参加者数：196名（登壇者除く）

九州地区のみならず、全国から参加あり。

申込み者数：259名



若手アカデミー活動報告

日本学術会議in福岡

学術講演会「若手研究者が考える地方創生と学術の未来」

2022年2月23日（水・祝）14:00～17:25 オンライン開催

- ・若手アカデミーの方々の真摯な研究姿勢、さらに発信力に感銘を受けました。さらに声を大きくして提言につなげ、**未来を切り開くはずの科学技術の政策に反映されることを切に期待**いたします。（60代、大学教員）
- ・**若手研究者がどのように地方創生に取り組んでいるか、そこでの課題が何か理解できて大変有益な学術講演会**でした。（70代以上、ファンディング機関顧問）
- ・良い学術講演会でした。特にパネルディスカッションに経験豊かなベテランの谷口先生を加えられたこと、大成功だったと思います。（中略）**若手とベテランの会話の重要性が見事に示された**と思います。（70代以上、大学役員）
- ・谷口先生や課長から大学は変わったという話が出ましたが、（中略）まだ多くの中の研究者の感覚は変わっていき、それに基づいて人事は動きますから、**若手が自分のキャリアのために、セーブされるのは実態そのもの**だと思います。（URAの方）
- ・**大学の存在意義が地方大学ほど、厳しいので、教員の役割が重要で、評価する人の能力が問われている。**（60代、大学教員）

若手アカデミー活動報告

日本学術会議公開シンポジウム

「縮退時代において、20年後のまち・社会を考える ～宇宙×都市×遺伝子×生態～」

日時：2022年3月1日(火) 13:00-17:00

場所：Zoomウェビナー

主催：日本学術会議若手アカデミー 越境する若手科学者分科会、土木工学・建築学委員会感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会、土木工学・建築学委員会気候変動と国土分科会、土木工学・建築学委員会都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同生態科学分科会、農学委員会農業生産環境工学分科会

開催趣旨：少子高齢化による地域社会の縮退、激甚化・頻発化する災害、地球環境問題の顕在化など課題が輻輳化する中で、既存の発想にとらわれない科学分野間の融合により、人間と自然が調和する新たな社会像が求められている。本シンポジウムでは、宇宙、生態、遺伝子、都市の各領域で、地域に根ざした諸問題の解決に取り組む産官学の若手の実践から、縮退時代における20年後のまち・社会と実現に向けた分野間の連携・融合を議論する。

小正 瑞季 (一社) SPACE FOODSPHERE、リアルテックホールディングス(株)
地球と宇宙の食の課題解決を目指す共創プログラム

東樹 宏和 京都大学、サンリット・シードリングス(株)
宇宙船地球等と持続可能な生態系

内井 喜美子 大阪大学
環境DNAによる生物多様性観測と自然共生社会実現への道

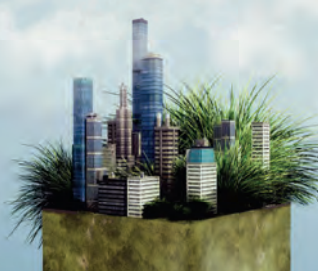
朝田 将 国土交通省水管理・国土保全局
水と緑、人とまちの、つながりの再構築に向けて

三牧 浩也 柏の葉アーバンデザインセンター
機能や主体が混ざり合うより自由な都市へ

小野 悠 豊橋技術科学大学
つくられる都市からつくくる都市へ

岡 祐輔 京島市企画経営戦略課
地域の寛容性が未来をつくる

縮退時代において、
20年後のまち・社会を考える



日本学術会議 公開シンポジウム
2022年3月1日(火) 13:00～17:00
オンライン開催 事前にご参加ください

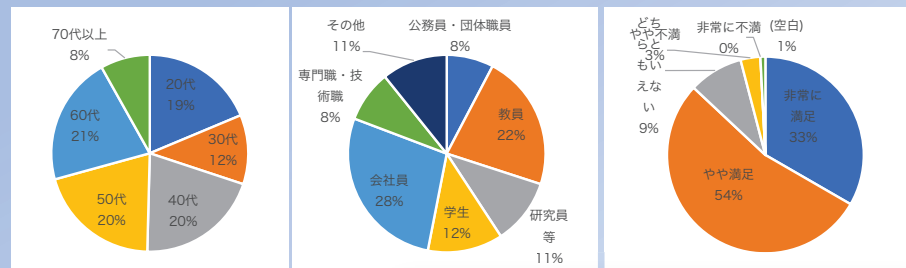
主催：日本学術会議若手アカデミー 越境する若手科学者分科会、土木工学・建築学委員会感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会、土木工学・建築学委員会気候変動と国土分科会、土木工学・建築学委員会都市・地域デザイン分科会、環境学委員会・統合生物学委員会合同自然環境分科会、統合生物学委員会・基礎生物学委員会合同生態科学分科会、農学委員会農業生産環境工学分科会

若手アカデミー活動報告

日本学術会議公開シンポジウム

「縮退時代において、20年後のまち・社会を考える ～宇宙×都市×遺伝子×生態～」

参加数：一般 315名（事前登録448名、参加率70%）、登壇 14名



日本学術会議 公開シンポジウム

縮退時代において、 20年後のまち・社会を考える

少子高齢化による地域社会の縮退、激甚化・頻発化する災害、地球環境問題の顕在化など課題が輻輳化する中で、既存の発想にとらわれない科学分野間の融合により、人間と自然が調和する新たな社会像が求められています。本シンポジウムでは、宇宙、生態、遺伝子、都市の各領域で、地域に根ざした諸問題の解決に取り組む産官学の若手の実践から、縮退時代における20年後のまち・社会と実現に向けた分野間の連携・融合を議論します。









2022年3月1日(火)
13:00～17:00
オンライン開催
事前にご参加ください

13:00-13:20 開会挨拶 岩崎 渉 東京大学大学院新創域創成科学研究科 教授
趣意説明 石川 嘉乃 東京大学大学院新創域創成科学研究科 准教授

13:20-14:20 宇宙産業から考える20年後のまち・社会：地球と宇宙の食の課題解決を目指す共創プログラム
小正 瑞季 一般社団法人SPACE FOODSPHERE 代表理事、リアルテックホールディングス株式会社 グロースマネージャー

生態系から考える20年後のまち・社会：宇宙船地球等と持続可能な生態系
東樹 宏和 京都大学生態学研究所 センター 准教授、サンリット・シードリングス株式会社 創業者/取締役

環境DNAから考える20年後のまち・社会：環境DNAによる生物多様性観測と自然共生社会実現への道
内井 喜美子 大阪大学大学院 助教

流域から考える20年後のまち・社会：水と緑、人とまちの、つながりの再構築に向けて
朝田 将 国土交通省水管理・国土保全局(川村高瀬川)川村高瀬川管理官

14:35-15:20 都市空間から考える20年後のまち・社会：機能や主体が混ざり合うより自由な都市へ
三牧 浩也 柏の葉アーバンデザインセンター 副センター長

アフリカから考える20年後のまち・社会：つくられる都市からつくくる都市へ
小野 悠 豊橋技術科学大学 准教授

15:35-16:20 総合討論1
パネリスト：講演者7名
コーディネーター：遠藤 良輔 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 講師

16:20-16:50 総合討論2
パネリスト：岩崎 渉 東京大学大学院新創域創成科学研究科 教授
北島 真 京都大学農学研究科 教授
飯塚 孝司 千葉大学大学院農学研究科 教授
佐々木 康 早稲田大学理工学術院 教授
コーディネーター：田井 明 九州大学大学院工学研究院環境社会部門 准教授

16:50 閉会挨拶 田井 明 九州大学大学院工学研究院環境社会部門 准教授

主催
日本学術会議
若手アカデミー 越境する若手科学者分科会
土木工学・建築学委員会 気候変動と国土分科会
同委員会 感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会
同委員会 都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会
環境学委員会、統合生物学委員会合同 自然環境分科会
統合生物学委員会、基礎生物学委員会合同 生態科学分科会
農学委員会 農業生産環境工学分科会

問い合わせ先
小野 悠 ono.haruka.ac@tut.jp ※@に変更してください

若手アカデミー活動報告

日本学術会議公開シンポジウム

「縮退時代において、20年後のまち・社会 を考える ～宇宙×都市×遺伝子×生態～」

- ・生態系や生物多様性と自然共生社会などまちづくりも含めて**すべてが繋がっていることが実感できた**ところが面白かった。
- ・単なる分野の越境だけではなくミクロとマクロも融合した**官学民間を超えた総合自然社会学**と言うような**ものが必要**な気がします。
- ・現在とある地区で、**産学官連携施設を整備し、研究内容の実装実験の場**として設けることができないか検討しています。**皆さんの取り組みやお考えが大変参考**になりました。
- ・異なる分野の有識者が共通の課題について考えることは今後の社会における常識だと感じるので、**今後ぜひ参加したい**。
- ・日本学術会議若手の方々をはじめ、皆様が**越境すること、協働することに期待をしていることに躊躇せずご努力されていることにエールを送りたい**です
- ・学術会議の若手アカデミーの活動について、紹介があり、心強く思いました。2040年問題や気候温暖化などに対して、**アカデミーとして何をなすべきか、何ができるか発信していただきたい**と思います。

今後の若手アカデミー活動予定（1）

2022年3月 アジア学術会議（安田会員）

「Science, technology and society for SDGs」

2022年11月 インターアカデミーパートナーシップ若手科学者会議 （標葉会員、新福会員、安田会員、若手アカデミー国際分科会）

Distributive Justice on Scientific Knowledge for the Future Sustainable Society
「Inclusive Excellence: Harnessing knowledge for sustainable societies」

2022年12月 世界科学者会議World Science Forum （標葉会員、近藤会員、小野会員、竹村会員、若手アカデミー国際分科会・GYA）

「Ecosystem for Distributive Justice on Scientific Knowledge」

今後の若手アカデミー活動予定（2）

Global Young Academy 2022年次総会兼学会

2022年6月11日-18日

九州大学伊都キャンパス+オンライン

委員長：新福洋子会員

テーマ：理性と感性のリバランス～科学と社会の関係性の見直し、
新たなつながり方による包括的、持続的な社会の形成

日本学術会議の共同主催国際会議として採択



- ①科学知と在来知の発展的融合
 - ②科学者の社会との
コミュニケーションの拡大
 - ③市民の科学的プロセスへの参加
- に関する具体的議論により、
科学と社会の新しいつながり方を
提案する。

「学術の動向」と若手アカデミー

- ・「専門誌ではできない分野横断的・俯瞰的な内容が議論できる雑誌であり、今の時代にこそ大事」
- ・「次のムーブメントの種を形として発信できる場」
- ・「若手のようなコミュニティ内のマイノリティからの意見を可視化できる」

（岸村顕広 前若手アカデミー代表 による）

＜若手アカデミーが特集で関わった号＞



20年後の科学・学術と社会を見据えたリモデリング戦略を考える

- 研究者コミュニティのみならず政府・産業界・メディア・国民や諸外国の若手アカデミーとも対話・連携することで、世界や日本が直面する諸問題、また、若手研究者をとりまく諸問題に関する解決策を提示し、実行していく
- 多様な観点から分科会活動を行うとともに、幅広い専門性からの知見を集約することで、20年後の科学・学術と社会を見据えた「リモデリング戦略」を提示する

どうぞ、よろしくお願いいたします。

